



僕の父の手記



涼一

神は全宇宙を創造されたのちに愛しみの心で人類をつくられた。
そのとき、神は人間に神と同じ靈魂をわけ与へられた。
即ちひとはそのなかに神と同じ質の魂を領け与えられたのである。
人は一人一人この分けみたまを抱いている。
それは生まれつき不具者でも同じである。
人である以上誰もがこの尊いみたまをわけ与えられている。
だからすべての人は尊い美しい存在なのである。だから
自分は尊い。美しい。
同じく他人も尊い、美しい存在なのである。
自分は何ものを以ても之に替え難い尊貴な自分である。
と同じく他の人も同じく尊むべき個人なのである。
人のしあわせは自分の中に神が宿っていらっしゃる事である。
おなじく他の人にも神の魂が宿っておられる。
同じく尊くありがたい事実です。
神の魂・・・それは生み出しつくしみ育てはぐぐむこと。
すべてが愛の心即ち慈しみの心からおこる、限りない、幸せの世界なのです。
人がこの世に生まれて先ず為さなければならないことは
この魂が神から授かった宝物である事を悟り
あ、あ、ありがたいと感謝する事です。
このありがたさに気づいた自分の幸せを他の人にも
気づいてもらふというのが、人のつとめなのです。
即ち人は自分の幸せを悟り他の人にもそれをさとってもらい
皆で一緒に人類みなものしあわせをほめたたえ感謝しながら生きていく事が
人の仕事なのであります。
すべての人がこの幸せを悟れば世の中から争いごとや殺し合いや戦争がなくなるはずです。
いつくしみの心で生みはぐぐみ育て喜ぶ事が
すべての人のつとめである。
これを皆が気づく事が大切です。
人はこのようにして神から魂を分け与えられた。
神の魂を心に抱いた尊い生き物です。